

# 憲法しんぶん 速報版

発行 憲法改悪阻止各界連絡会議 (憲法会議)

2017年5月22日 (月)

NO. 754号 本号3頁

Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp  
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp

TEL03-3261-9007  
FAX03-3261-5453

## 「共謀罪」強行採決に抗議!国会正門前集會に9000人!

自民、公明、維新の各党が共謀罪法案を衆院法務委員会で強行採決した19日夜、国会正門前で共謀罪法案強行採決に抗議する集會が開催されました。抗議集會は「総がかり行動実行委員会」「共謀罪NO! 実行委員会」「安全保障関連法に反対する学生の会」の共催で実施されました。参加した9000人が「強行採決徹底糾弾!」「野党はがんばれ!」と怒りの声を上げました。



抗議集會で、主催者を代表してあいさつした一橋大学教授の葛野尋之さんは、「共謀罪は自由で民主な社会の根幹を切り崩し、専制国家をもたらす。必ず阻止しましょう」と訴えました。

民進党の蓮舫代表、日本共産党の小池晃書記局長、社民党の福島瑞穂副党首、参院会派「沖縄の風」の糸数慶子代表があいさつ。蓮舫氏は、「突然の強行採決。あらためて強い怒りと、この政権の傲慢さと、この政権のおごりと、皆さんの声をなかつたものにして今この政権に、心の底から『これはおかしい』と一緒に言おうではないか」「知り合いには甘い政治を。歯向かうものには取り締まる可能性があるという共謀罪を。こうした安倍内閣としっかりと闘っていく」と決意を訴えました。また、小池氏は、「安倍政権は『戦争ができる国』『ものいぬ国』へと暴走しています。市民と野党が結束して共謀罪を廃案にし、安倍政権を倒そう」と呼びかけました。

国会前は、首都圏だけでなく全国各地の参加者で膨れ上がりました。名古屋市男性(39)は、「強権的な安倍政権に危機感を感じます。政治を変えるために声をあげたい」。埼玉県三芳町男性(63歳)は「9000人も集まっていることに驚いています。国民は怒っています。子や孫を戦場に送らないためにも、何とか阻止したい」と話しました。

抗議は「未来のための公共」が引きつぎ、午後10時すぎまで続けられました。

## 監視、密告社会にNO! 共謀罪成立阻止に力を集中!

### -引き続き、参議院審議まで時の連続国会行動-

今国会での共謀罪成立に固執する政府・与党は、23日衆議院本会議での法案通過を強行しようとしています。しかし、当初、政府が目論んだ審議日程からは相当遅れており、国会最終盤までの攻防となることが予想されます。

「一般人は対象とならない」、「テロ対策のため」などの政府の主張は、この間の立憲野党の追及で破たんし、世論調査でも64%が「今国会で成立させる必要はない」と回答する状況下での採決強行は断じて許されません。

共謀罪に反対する全国の声と一体に、国会を包囲し、法案の成立を市民のたたかいでくいとめましょう。

以下は、戦争させない・9条壊すな！総がかり行動実行委員会と共謀罪 NO!実行委員会が共同で呼びかける当面の諸行動です。

5月22日(月)	夕方(18時30分~19時30分) 議員会館前行動
5月23日(火) 衆院本会議	昼(12時~13時) 議員会館前行動 午後(13時30分~16時) 議員会館前座り込み 夕方(18時30分~19時30分) 議員会館前行動
5月24日(水) 参院本会議	昼(12時30分~13時30分) 議員会館前行動 *夕方(18時30分~)に「労働運動と市民運動の連帯をめざす1日実行委員会」主催の日比谷野外音楽堂での集会開催予定
5月25日(木) 審議日	夕方(18時30分~19時30分) 議員会館前行動
5月28日(日)	市民と野党の街頭宣伝、署名行動(新宿駅西口)
5月31日(水)	夕方(18時30分~)「共謀罪の廃案を求める市民の集い」 (日比谷野外音楽堂)
6月10日(土)	午後(14時~15時30分) 辺野古新基地建設と共謀罪新設を許さない国会包囲行動

※万一5月23日に与党などが、衆議院本会議で共謀罪法案の採決を強行した場合、参議院に送られ、参議院がたたかいの舞台となります。総がかり行動実行委員会、共謀罪 NO!実行委員会が提起する行動日程は続報します。

## **首相の改憲発言「頭越し」と批判噴出! 衆院憲法審査会**

今国会で4回目の衆院憲法審査会が18日、「国と地方のあり方」に関する自由討議がテーマで開催されましたが、首相発言への言及が相次ぎました。衆院憲法審査会、約一カ月ぶりに議論を再開。安倍晋三首相が2020年の改憲施行を提案して以降、初めての審議です。

審査会では、再開に向けた幹事会の協議で合意したように、冒頭、森英介会長(自民)が首相発言を踏まえ「憲法改正の発議権を有しているのは、あくまでも国会だ。主体性を持って与野党で丁寧な議論を積み重ねていかなければいけない」と所感を表明しました。

民進党の中川正春氏は、首相発言について「国会の立法権を著しく侵害し、議事の混乱を引き起こした」として、審査会が発言の撤回を求めて決議するよう提案しました。自民党の中谷元氏は「あくまで党総裁としての考えで、党に向けた発言だ」と釈明しました。また、改憲発議に向け「国論が二分しないように野党にも理解を得ることを目指していく。20年施行に縛られるものではなく、議論を積み上げていきたい」と述べました。

一方で、自民党の古屋圭司氏らは、首相発言の撤回を求める決議について「まったく必要ない」と否定しました。同党の船田元・議員は「行政の長、内閣にある者は抑制的であるべきだ」と述べる一方、「憲法改正について具体論を議論しよう、そういう時期がきた」と述べました。

これに対し、野党側は民進党のほか、共産、社民両党が首相発言を批判しました。共産党の赤嶺政賢氏は「憲法尊重擁護義務を負う政府の長が国会の権限に介入した。三権分立に反し、到底容認できない」と批判し、安倍首相による改憲原案づくりの指示を受けて自民党が改憲議論の「加速化」を図ろうとしていることは「言語道断だ」と述べました。また、社民党の照屋寛徳氏も「首相に具体的な改憲項目や改憲年限を国会や国民に示す権限はない」と語りました。

身も心も改憲の日本維新の会の足立康史氏は改憲に向け「民進党も考え方をまとめてほしい」と求めました。

## 自民、改憲推進本部を拡充へ 憲法審は首相発言で応酬

自民党は18日に、安倍晋三首相（党総裁？）が指示した憲法改正の原案づくりのため、党憲法改正推進本部の役員体制を拡充する方針を決めました。安倍首相は高村正彦副総裁と会談し、取りまとめへの協力を求めました。

自民党の二階俊博幹事長はこの日、党本部で党改憲推進本部の保岡興治本部長と会談しました。幹事長室と推進本部の役員メンバーが同席。原案取りまとめに向けて挙党態勢をつくるため、推進本部の役員を増やすことを確認しました。二階氏らの就任も想定しています。党幹部が検討していた推進本部の下部組織としての委員会設置は当面、見送りました。保岡氏は会談後、記者団に「具体案をできる限り早くまとめ、国民に提示したい」と述べました。議論する改正項目としては、9条改正や教育無償化、緊急事態における国会議員の任期延長の3点を例示しました。

### 各地のとくくみ

#### 日弁連 共謀罪反対集会「市民の人権・自由を広く侵害」

日本弁護士連合会（中本和洋会長）は18日、「市民の人権・自由を広く侵害する共謀罪創設に反対する集会」を東京都千代田区内で開きました。集会は、法案に反対する意思表示とともに多彩な発言者から共謀罪の問題点をわかりやすく発信するために企画されました。

首都大学東京の木村草太教授が基調報告。木村さんは「大変ひどい法案だ。このひどさを理解してもらわないと、とても東京オリンピックとパラリンピックを開催できない」とのべ、会場をわかれました。法案について木村氏は「テロ対策とは言えない内容であり、国際組織犯罪防止条約の参加には不要で過剰、憲法上もさまざまな観点からも問題だ」と指摘しました。

リレートークでは、映画監督の周防正行さんと山田火砂子さん、法政大学教授の山口二郎さん、元裁判官の泉山禎治弁護士ら9人が発言しました。冤罪（えんざい）をテーマにした映画「それでもボクはやってない」の監督の周防さんは「捜査手法として密告に頼ることなどが考えられ、必ず冤罪（えんざい）が増える」と指摘。「自分だけでなく家族、友人が、共謀罪がある社会に生きていくことになる危険、怖さ、不自由さを想像して」と呼びかけました。

また、発言した「大垣警察市民監視事件」の当事者、近藤ゆり子さん(67)は「『もの言う』自由を奪われた社会では、全ての人権がないがしろにされる」と訴えました。



国会前の連続行動

#### 改憲許すなと若者憲法集会 全国から1000人の若者が結集！

東京都内で21日、「若者の願いと憲法が生かされる政治を実現しよう、真っ向から反する安倍政権にNOを突きつけよう」と、若者憲法集会が開かれました。世田谷区で開かれた全体会には「ボクらが主権者」「共謀罪いややなあ」などと書いたプラカードを手に全国各地の青年・学生など1000人が参加。開会挨拶した小山農さんは、憲法を2020年までに変えるという安倍首相の発言を批判し、「憲法をないがしろにする政治を変え、憲法をいかす政治に踏み出そう」とよびかけました。

神戸女学院大学の石川康宏教授が大学生の質問に答えて、「改憲が狙われる一方、戦争法反対など、個人の尊厳を大切にする市民の運動が画期的に盛り上がり、憲法通りの日本を実現しようという運動が起こっている。まさに『歴史の分岐点』を迎えている」と強調。「苦しい上り坂を上り切れば、一気に政治を変えることができる」と励ましました。

参加した兵庫県伊丹市に住む23歳の大学院生は「憲法が定めた『戦争しない国』の根幹が揺らいでいる由々しき事態。他の国の人に被害を与えたくもないし、被害を受けたくもないので、声をあげたい」と話しました。

全体会の前には、都内2会場で五つの分科会が開かれました。